

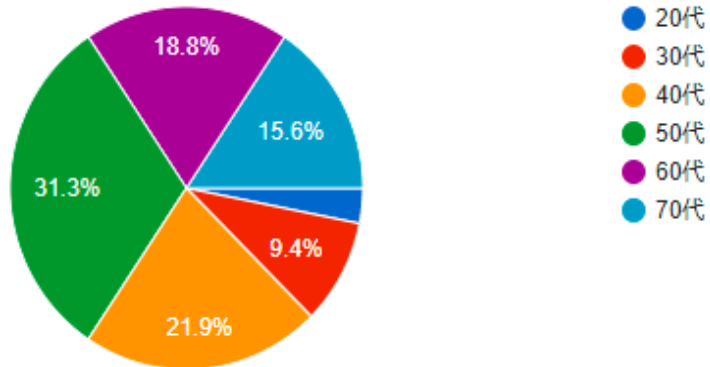
人生アルバム専門職向けアンケート(主な対象:居宅部会)

居宅部会勉強会開催日:第1回9月16日(木) 第2回10月7日(木)

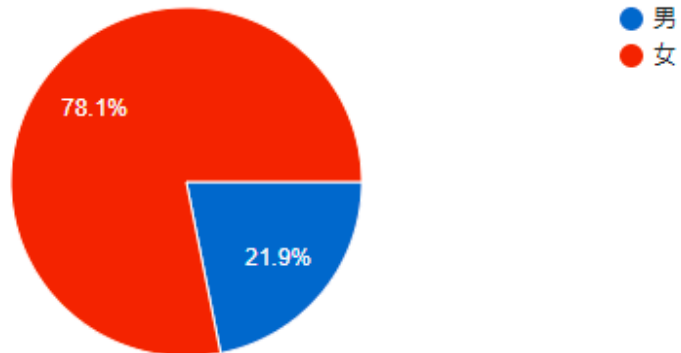
集計日 令和3年10月29日(金)

1: 回答者年齢。 回答数: 32 件の回答。

20代1件 30代3件 40代7件 50代10件 60代6件 70代5件

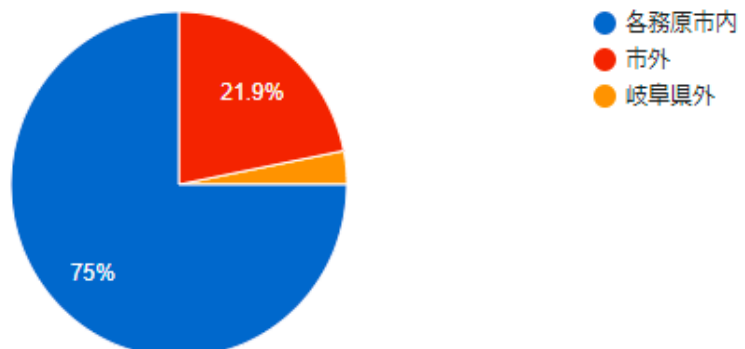


2: 性別。 回答数: 32 件の回答。 女性 25件 男性 7件



3: 回答された方のお住まい。 回答数: 32 件の回答。

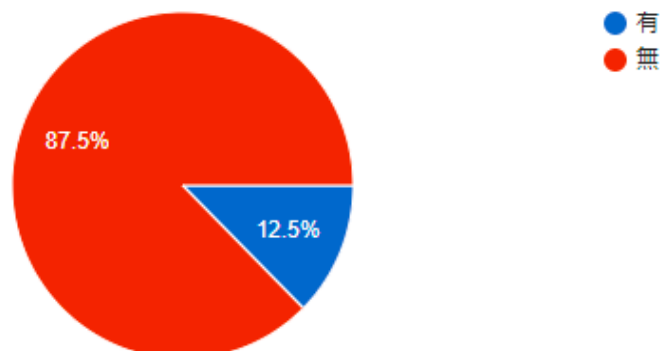
各務原市内 24件 各務原市外 7件 岐阜県外 1件



4: 人生アルバムの冊子の内容として

「変更」や「追加」したいところがありますか？

回答数: 32 件の回答。有 4 件 無 28 件

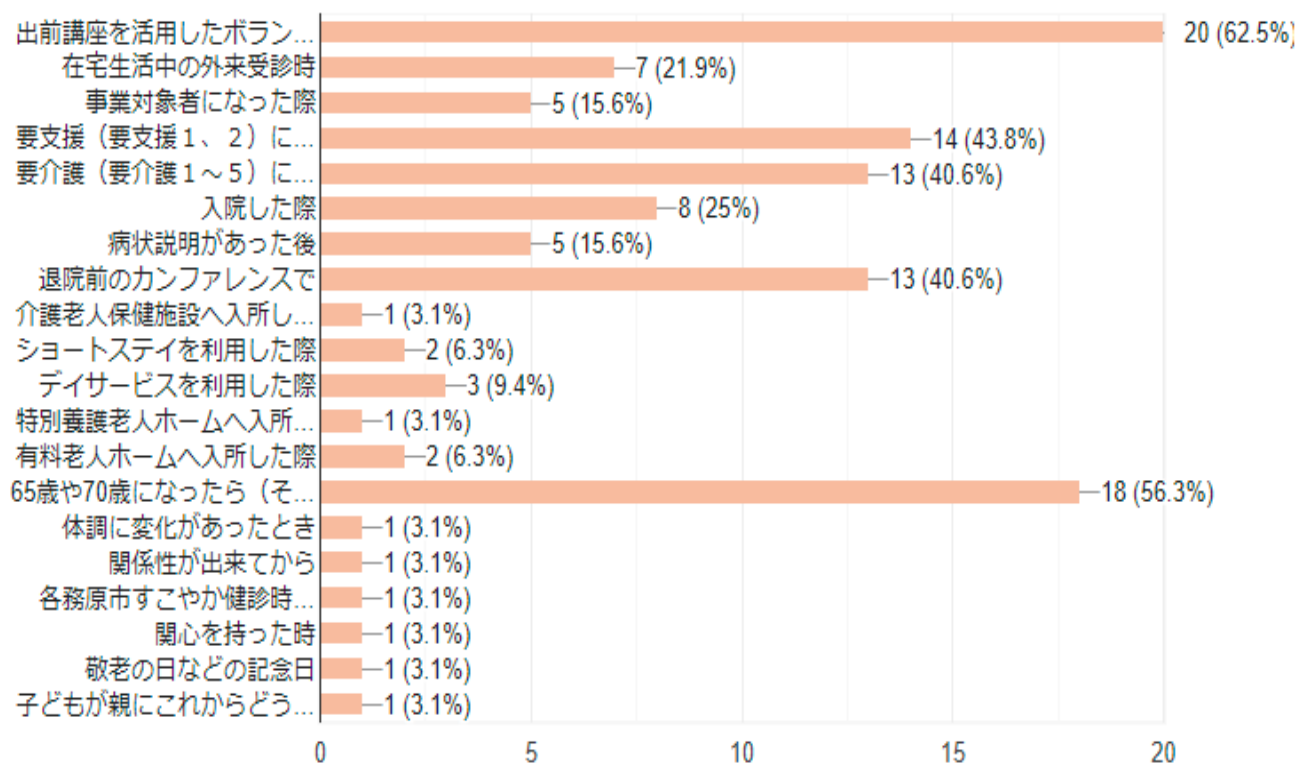


5: 上記質問にて「有」と回答された方は、ご意見をご記入願います。

- よく考えられていると思います。余命宣告を受けられた方にご家族様と一緒に書いてみて下さいと勧めましたが、見開きに書かれた文章をゆっくり読み上げてお話すると、おふたり共、大きくなずいておられました。
- ・未来のページの P12 と P14-15 など、今後考えが変わる可能性の箇所に「思いは変わっても良いし、変わっても消さずに付け加えて書いていきましょう」というような一文を加えてはどうでしょうか？ 書き易くなると思います。
- ・「こういう所に置いておきましょう」という内容を P11 の緊急時の連絡先などに記載してはどうでしょうか？
- あまり細かなことの取り決めがないほうが、自身の考えを書くことが出来ると思います。
- 一人住まいの方などは遠方の家族以外に日常常に関わる友人が唯一の相談相手の場合が想定できます。緊急時の連絡先以外に自由欄などの記載が出来るとよいかと思いました。
(私事ですが)配偶者の両親・親類との思い出が多く家系図には記入できる箇所があればと感じました。
- 表紙または裏表紙に「記名欄」があると良いかと思います。
- 伊木山と赤い電車、飛行機がとてもいいです。
- アルバムの質が上質すぎて、気軽に書き込むことが出来ない気がします。
内容が時に変化すると思われるので、ダウンロードできて、その時々のお気持ちの変化に対応できるようにしてほしいです。

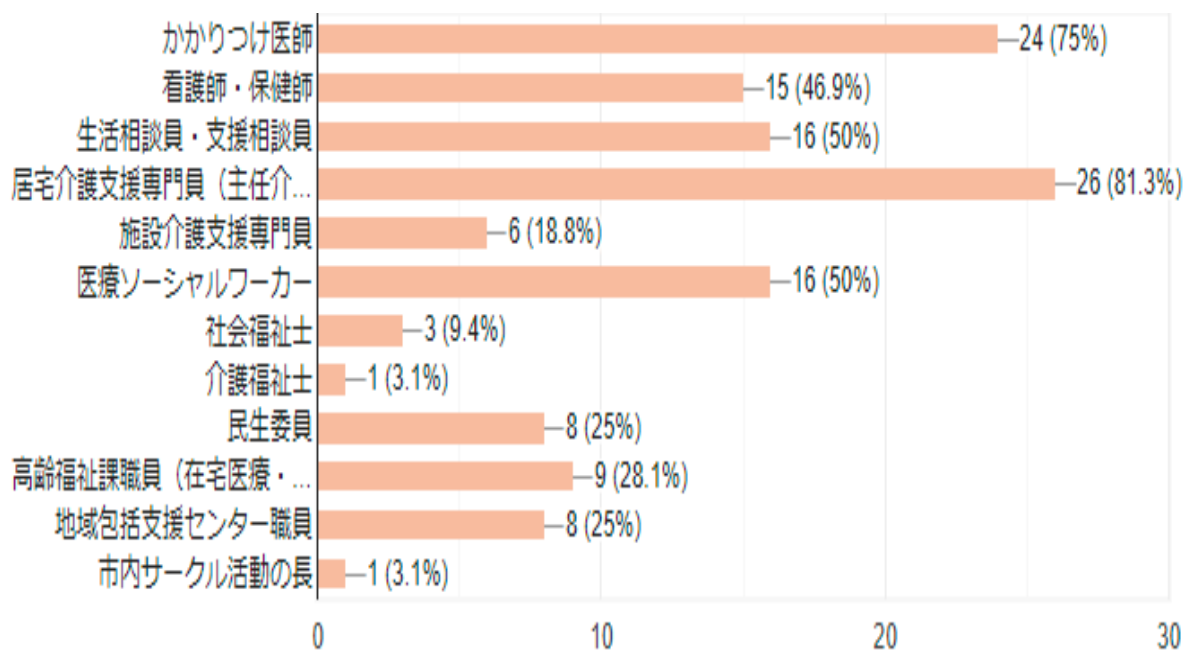
6: 冊子を導入できる場面はいつだと思えますか？

(複数回答可 5つまで)。回答数: 32 件の回答。



7: 冊子を導入する人はだれが望ましいでしょうか？

(複数回答可 5つまで)。回答数: 32 件の回答。



8:冊子は具体的にどのような方法で(場所・声掛け等)

勧めることが適切でしょうか？

- 本人と介護者の関係が良好であること(一緒に記録する場合)も大切なので、家族関係を見極めて勧める。
- 認知症の親を持つ子供さんから「本人の事はなにも知らないし、何かわかる方法がないか」と相談された事があります。軽度認知症の時点で(家族に)渡すとか、離れた地域に生活する主介護者に提案するのも有効。
- 大きな区切りがあった時。年齢や体調、環境変化など。今までの自分を振り返りこれからどうしたいか考えてみませんか？
- 体調の変化があり、大きく今までのサービスが変わるときなど、アセスメントの一環として家族と一緒に冊子を見ながら勧めていけるとよい。自分で文字が書ける人ばかりではないので、家族の関係性が良好な家庭環境でないと勧められない。
- アセスメントやモニタリング時に
- これからについて考えるタイミング(サービス導入など)で、面談や会議の際に
- (ケアマネとして)改めて話すと相手も身構えてしまうので「こういうのができたみたいですよ」とモニタリング時などにパンフレットを紹介し、過去・現在の部分は家族で難しそうな方はケアマネが聞き取りながら一緒に書いてあげて、きっかけを作ってあげても良いと思います。家に置いてあったら、ヘルパーさんや訪看さんでも共有したり、話ができるように、ぜひ研修会を広く開催して欲しいです。
- ある年齢になり、まだ自立した生活が出来ている内にふと振り返ってみましょうと思うことが出来る時点ではないかと思う(自身で考える力が必要と思う)
- 訪問時に会話の中で本人が自分の人生を語り始めたときや、その方の状態によっては、初回訪問なども。
- 医療機関 包括支援センター 各関係機関で市民の目に入りやす場所でポスターや広報啓発
- 近隣ケアグループなどでの学習会・講座などの機会に地域の活動家に説明ができる場面があるかと思います。
- かかりつけの病院、居宅支援事業所、民生委員など、受診時・訪問時などに信頼関係が構築できている人が勧めると良いと思います。
- 入退院時や認定の更新時などなにかきっかけがある場合は説明しやすそうです。
- 場所は自宅 家族へ渡す 広報に掲載。
- 一定の年齢など条件を決めて、皆が受け取るものという形を周知すれば、抵抗なく受け

取れると思う。

- 自宅で。6 の場面等になった時に、人生アルバムの存在を紹介してみる。興味を持ってくれたら詳しく説明。
- モニタリング等 訪問した時、普段の会話の延長線上で話せれば。と思います。
- 初回訪問時にアセスメントと絡めて勧めると良いなと思いました。
- 自治体から(回覧板)
- 落ち着いた場所で時間的なゆとりを持って勧めたいと思います。
- 病気になってから、何かあってから書いてもらうのもいいと思いますが、元気なうちに一度書いてもらえるよう、企業等への出前講座などで配布するののも一つだと思いました。
- 病院や診療所、市役所、福祉会館、包括、ケアマネさんの窓口に置く。
- 本人が興味のある時期に配布してほしい。母が亡くなってからたくさんの走り書きや覚えが気が出てきた。最後のページに自由にかけるページも増やしてもいいかと思いました。
- 年齢を重ね、節目(誕生日、入退院)を迎えたとき。個々に話ができる環境等がよいかと思います。
- ケアマネであれば、利用者様の御自宅で。御自分の意志を表すことができる方なら、お話ししながら。
- 気分を害されるようなら避けたい。
- 病気になった時など、本人が弱った時でなく、元気な時に勧めることができたらいいなあと思います。特別な物ではなく、誰もが知っていて気軽に記入できるよう、65才、70才などになったら、各務原市民は手にする物になったらいいなあと思います。
- ケアマネ 新規の方との契約時だと、さらりと紹介しやすいかもと思います
- 入院の時は、もし私だったらショックかなー！？重い気がします。私は元気な高齢者ですが、すぐ書き込みたいと思いました。そういう意味では、ボランティアハウス等でみんなとわいわい記入したら楽しいですね。病気の時もらったらネガティブ思考になってしまいそう。
- 友人知人の「死亡・病気など」の話が出たときのタイミングで渡すことが多い。
- 比較的元気な時に、明るい気持ちで記入が出来るのが望ましいと思います。病気の告知があった際に急に書き込みをしようと思っても、気分によって書けないことが多いかも…。
- 誕生日に渡す。どうしたら良いか迷っておられる人に。